

富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布してい

聴覚障害者向けの情報アクセシビリティとは・・・

全国聴覚障害者情報提供施設協議会（全聴情協）ソフト制作担当職員研修会の報告

11月10日（水）9:30～16:00開催。例年では2泊3日の日程で研修のところ、オンラインで1日のみ開催となりました。初めてのオンライン研修でしたが、スムーズに進められました。

慶應義塾大学大学院政策メディア研究科特任教授 川森雅仁氏より「障害者向けの情報アクセシビリティ」と題するIPTV、電話リレーサービス、ICTの活用などについての講演の他、字幕付きCM普及推進協議会の方の字幕付きCMの取り組みについて、新潟情報提供施設のライブラリーやスタジオ活動についての話がありました。

聴覚障害者向けの情報アクセシビリティについては電話リレーサービス、遠隔手話通訳サービス、番組の字幕付与などの取り組み、欧米と日本の違いやこれからの課題など。字幕付きCMについては2016年に初めて実施してからこれまでの流れや取り組み、これからの展望や課題などを学びました。情報アクセシビリティやテレビ業界のCM字幕付与についての裏話を聞いたことが大きかったです。新潟県の情報提供施設の取り組みのお話ではライブラリー貸出作業を県内の2つの聾学校を出張して貸出しているとのことでした。この研修で学んだことを今後の業務に活かせるよう頑張りたいと思いました。（文責：菊池 友達）

* * * * *
* * * * *



遠隔手話通訳における手話通訳技術を学ぶ

全聴情協第2ブロック コーディネーター研修の報告

11月19日（金）、県聴覚障害者センターボランティア交流室にて、コーディネーター研修を受講しました。今回もオンラインでの研修となりましたが、北信越5県の皆さんと久しぶりに顔を合わせることができ、嬉しく思いました。

まず、長野県聴覚障害者協会の理事である上嶋太氏を講師にお招きし、「遠隔手話通訳」についてお話いただきました。その中で、各県から遠隔手話通訳のメリット、デメリットを出しあい、手話通訳者、利用者（ろう者）に求められるリテラシー（機器操作、通訳利用に関するスキル）が大変重要であることが確認できました。また、遠隔手話通訳では画面越しとなるため、正面からの手話が読み取りにくい場合があります。平面であることを意識しながら身体の向きをナナメにする、顔の前に手がかぶらないなど、技術的なコツも教えていただきました。

後半では各県の遠隔手話通訳の現状を出し合い、利用件数が少ない（0件）のは富山だけではないことも分かりました。

意見交換のなかで、コーディネーターならではの悩みとして、通訳者、ろう者との連絡方法が話題になりました。FAX、メール、LINE他、連絡方法が多岐にわたることで、事務作業が煩雑になっているとの話があり、どこも同じなのだと感じました。

研修を受けると、同じような悩みを抱えており、他県の動向がわかり安心できることが多く、有意義な研修となりました。（文責：宮崎 知子）

センター利用の実績 10月21日～11月20日

- 来所者合計 約502名
聴障者約176名、健聴者約326名
- コミュニケーション支援 103件
- ライブラリー貸出 1件4本 ●相談対応 2件
- 部屋貸出 42件

★センター運営募金・募集
郵便振替口座；
00790 - 0 - 93002
名称；富山県聴覚障害者
センターを支える会
よろしくお祈いします。